

健康づくり村民一丸

推進大会で生活改善誓う

東
通

東通村は20日、「いつでもどこでも」だれでもヘルスプロモーションをテーマに掲げ、村体育館で健康づくり推進大会を開いた。村民約600人が参加。 「健康づくり宣言」を行い、一人一人が意識を高めて生活習慣の改善などに



健康づくりの輪を広げていくことと参加者たち

取り組むことを誓った。東通村は、平均寿命が全国の自治体で下位にあるほか、幼少期の肥満の割合が高いなど、健康をめぐる課題が数多くある。

講演した弘前大学大学院医学研究科の中路重之教授は、喫煙率や肥満、塩分摂取量、検診の受診率など本県全体の課題を説明した上で「短命県を返上するには、子ども時から健康づくりを考えないといけない」と強調。地域医療振興協会地域医療研究所ヘルスプロモーション研究センター長の中村正和氏は「みんなで取り組んでいくことが、生活習慣を改善していく力になる」と語り続けた。

また、同村の保健師や食生活改善推進員、東通小学校の児童らによる健康づくり活動の発表と意見交換が行われた。

越善靖夫村長は「企業、団体、医療、学校、行政な

ど地域が一丸となって意識を組みを進めよう」と呼び掛けた。(近藤弘樹)